

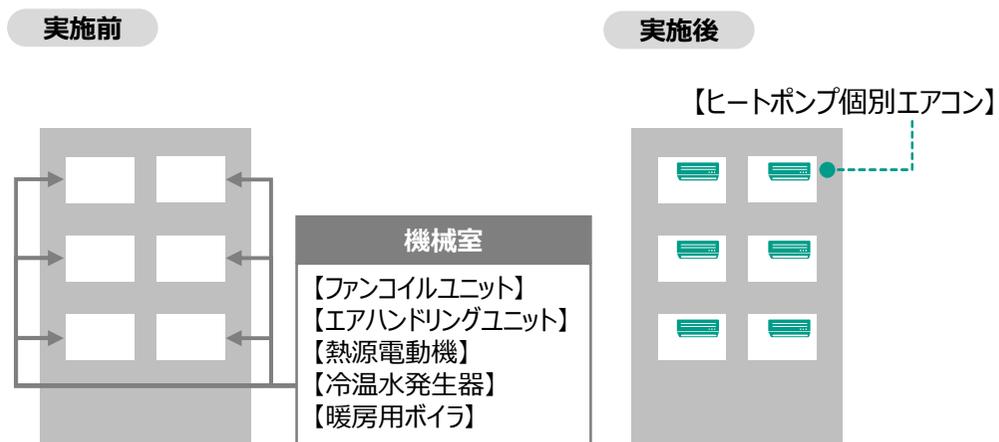
8.2 建築物等の脱炭素化・レジリエンス強化促進事業〈国立公園宿舎施設の省CO₂改修支援事業〉

① 設備更新による危険物取扱からの解放と設備運転確認作業の簡素化

事業概要

事業者概要	事業者名	株式会社望水
	業種	宿泊業
事業所	所在地	静岡県
	総延床面積	5,897m ²
補助金額	補助金額	約2,123万円
	補助率	1/2
主な導入設備	従前設備	ファンコイルユニット、エアハンドリングユニット、熱源電動機、冷温水発生器、暖房用ボイラ
	導入設備	ヒートポンプ個別エアコン
事業期間	稼働日	2021年12月
区分		更新
特長		設備更新により、重油から電力へエネルギー転換したため、重油の貯蔵施設（危険物）が廃止となり、施設の安全性が高まった。 また、ボイラの運転確認作業がなくなり、点検作業が簡素化されたため、労働時間が削減された。

システム図



写真

室外機



8.2 建築物等の脱炭素化・レジリエンス強化促進事業〈国立公園宿舎施設の省CO₂改修支援事業〉

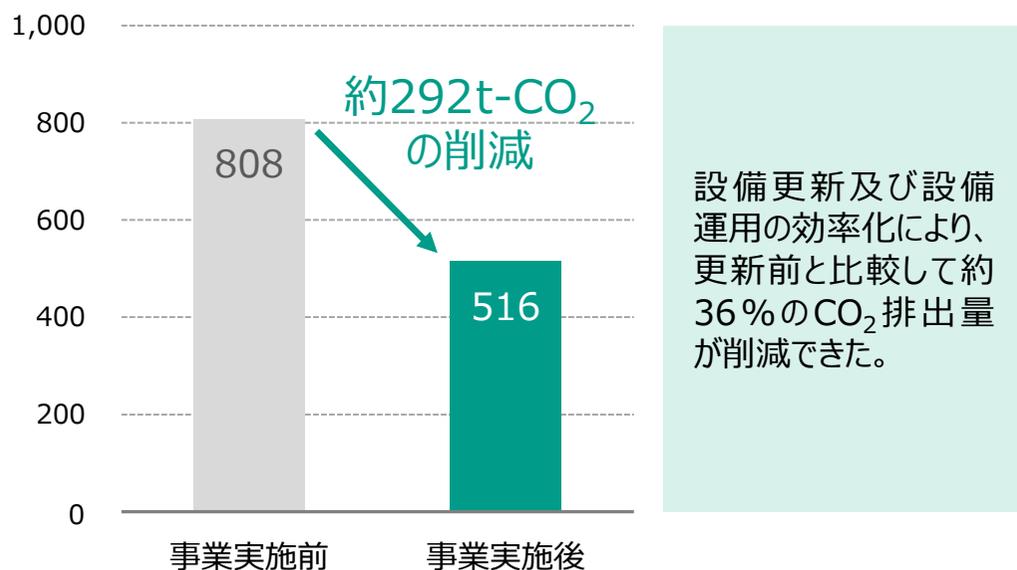
① 設備更新による危険物取扱からの解放と設備運転確認作業の簡素化

事業の効果

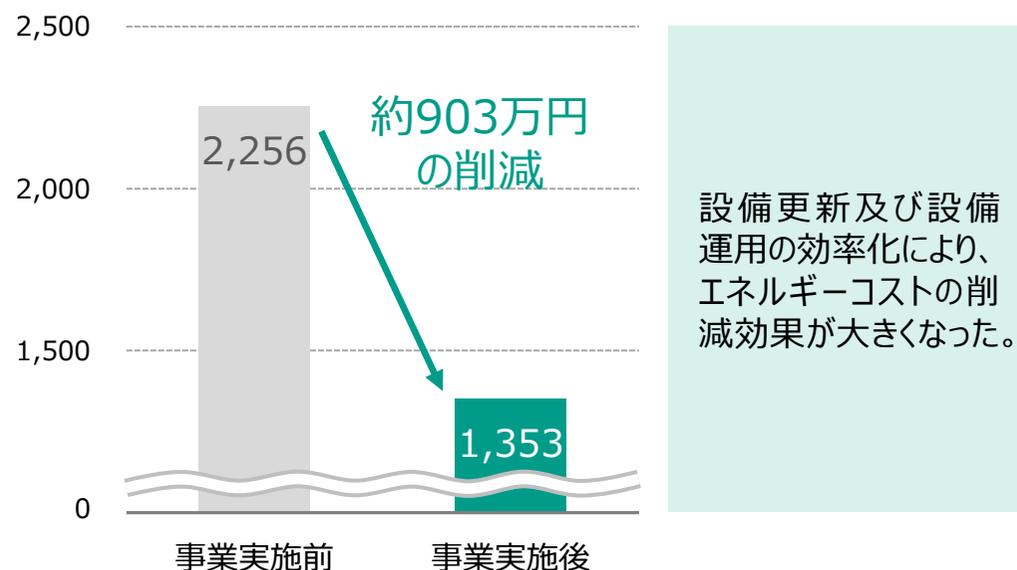
エネルギーコスト削減額		約903万円／年
投資回収年数	補助あり	約3年
	補助なし	約5年

CO ₂ 削減量	約292t-CO ₂ ／年
CO ₂ 削減コスト	5,589円／t-CO ₂

CO₂排出量 (t-CO₂／年)



エネルギーコスト (万円／年)



【脚注】
※ ここに示す事業の効果は、電力単価：15.2円／kWh（出典：電力・ガス取引監視等委員会HP）を用いて試算したものである。

① 設備更新による危険物取扱からの解放と設備運転確認作業の簡素化

事業によって実現できたこと／事業前にあった課題及びその解決方法

■ 設備更新によって、CO₂削減以外に、以下のような副次的効果があった。

- 昼夜を問わず行っていたボイラの運転確認作業が不要となり、設備点検も簡素化したため、労働時間が削減された。
- 導入前は中央制御で空調を一斉稼働し、休館日も熱源設備を運転されていたが、導入後は個別空調となり「特定の部屋のみの稼働」が可能となったため、休館日の熱源設備を運転が不要となり、エネルギーコストの削減につながった。
- 重油から電力へのエネルギー転換により、重油の貯蔵施設（危険物）が廃止となり、施設の安全性が向上した。
- 重油から電力へのエネルギー転換により、SO_x、NO_x、煤塵の排出が削減された。

設備点検作業の簡素化による労働環境の改善

実施前 昼夜を問わない運転確認作業が必要



実施後 設備点検作業が簡素化



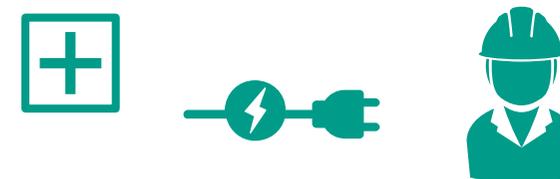
設備更新により、設備点検作業が簡素化し労働環境が改善した。

設備更新による安全性の向上

実施前 重油の取り扱いが必須



実施後 重油から電力の取り扱いに変わった

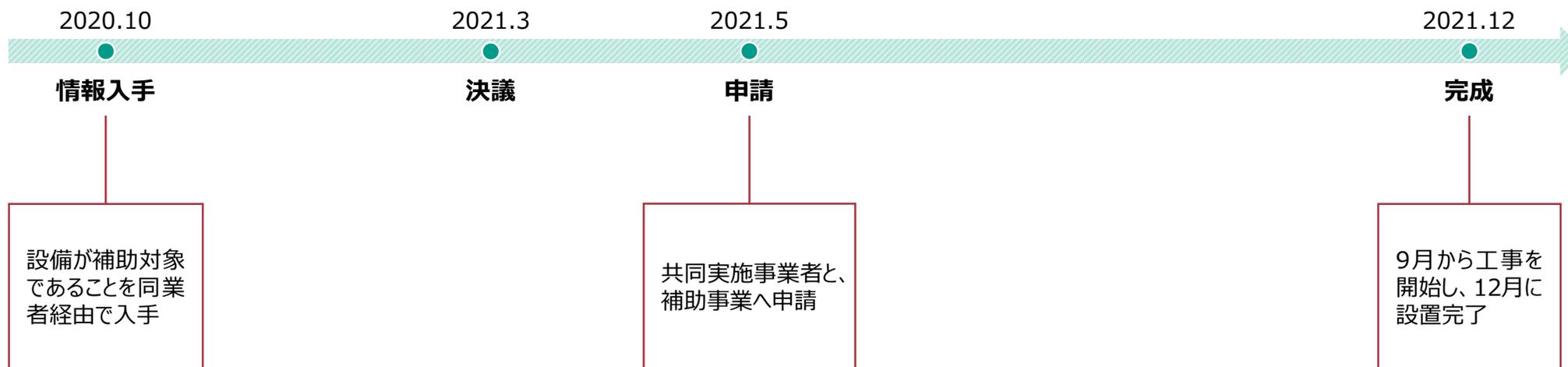


設備更新により、危険物の取扱がなくなったため安全性が向上した。

8.2 建築物等の脱炭素化・レジリエンス強化促進事業〈国立公園宿舎施設の省CO₂改修支援事業〉

① 設備更新による危険物取扱からの解放と設備運転確認作業の簡素化

事業の経緯／今後の予定



事業者の声



林 紀幸

株式会社 望水 執行役員 社長室長

- 補助事業としてご支援いただくことで、重油の利用を完全廃止することによるCO₂削減、機械更新による館内エネルギー効率の向上、ひいてはお客様のご滞在環境への満足度向上に繋がる契機と捉え、信頼できる地元パートナー企業と共に安心して取り組むことができました。



森田 浩史

伊豆冷暖房工業 株式会社 専務取締役

- 従来システムの冷温水発生機によるセントラル方式では、季節の移り変わりの冷暖切替、冷温水配管の結露、ファンコイル・エアハンの経年劣化による異音など、様々な問題を抱えていました。CO₂削減と同時にこれらを解決するため、「個別の高効率空調に更新」する事を提案させて頂きました。個別化の実現には、内装解体等も必要でコストが掛かりますが、本補助金を活用できたことで、お客様にも満足頂けたのではないかと思います。